

手藁地区 地域の「お宝」マップ

知覧茶発祥の地

■ 手藁の由来

江戸時代知覧の奥山から急ぎの丹波を運んだ家臣が、ちょうどこの峠で雨に降られ立ち往生してしまいました。困った家臣は、こゝでいた茶を細かくて袋を作り無事手藁を運ける事ができました。この話を聞いた節主が、この地に「手藁」の名を与えたと伝説があります。(ほかにも「ナン」と発言することから「山頂を意味する」から「ナン」と発言することから「山頂を意味する」といふ説があります。

■ 知覧茶はここから始まった

江戸時代の手藁は、知覧島津氏の軍役地で杉の美林があり、手藁杉の杉をここでよく採り、土地は手藁の人に採り下され、明治5年頃お茶が植えられました。ところが、外から技術者を招き本格的に茶園の拡大に努め、釜炒り番茶の製造を行ったといわれています。存続5年の島林水産祭などでは、後居北の村川製茶が天皇杯を受賞しました。

■ 南薩の聖跡王

江戸時代後半から明治初頭にかけて、池之内の赤崎休石僧門が、この地で龍の失速の真から駄馬で運搬したもので、約1.2km四方、高さ約5mほどの高状状の山で、自然の切り石を用いて築き、その上から砂鉄と木炭を交互に入れて製鉄をおこなっていた。赤崎休石僧門の製鉄王としてその名が知られました。それを物語る当時に出土する不純物が残っています。

1 旧知覧街道境界標
2 後岳の茶碑
3 銀山跡
4 カノツ水(岸河内の水)
5 田圃道・里程標
6 石橋
7 ホソツ神様
8 知覧節歌碑
9 手藁の由来
10 知覧節発祥の地碑
11 知覧茶モニュメント
12 塔之尾(五輪塔)
13 村元山神
14 忠魂碑
15 仏石
16 旧手藁小学校跡
17 手藁小学校開校記念碑
18 水神
19 池之内河内製鉄遺跡
20 山神(池之内河内)

白岳から見た手藁
新倉から見た後岳
上谷から見た池之内河内

1 旧知覧街道境界標
2 後岳の茶碑
3 銀山跡
4 カノツ水(岸河内の水)
5 田圃道・里程標
6 石橋
7 ホソツ神様
8 知覧節歌碑
9 手藁の由来
10 知覧節発祥の地碑
11 知覧茶モニュメント
12 塔之尾(五輪塔)
13 村元山神
14 忠魂碑
15 仏石
16 旧手藁小学校跡
17 手藁小学校開校記念碑
18 水神
19 池之内河内製鉄遺跡
20 山神(池之内河内)